

社会福祉法人 仙台市社会事業協会

《令和6年 新年のご挨拶》

P2. 副会長、事務局長のご挨拶

～高齢者福祉事業～

P2～3. 養護老人ホーム 仙台長生園
特定施設 仙台長生園

P3～6. 仙台楽生園ユニットケア施設群

《特別養護老人ホーム仙台楽生園、仙台楽生園短期入所事業所、
有料老人ホーム創快館、葉山地域交流プラザ、グループホーム楽庵、
葉山地域包括支援センター、楽園デイサービスセンター、葉山ケアプラ
ンセンター、葉山ヘルパーセンター》

P6～7. 沖野老人福祉センター、沖野居宅介護支援センター

～児童福祉事業～

P7. 幼保連携型認定こども園仙台保育園

P7～8. 柏木保育園

P8. 富沢わかば保育園

P8. 幼保連携型認定こども園中山保育園

P9. 母子生活支援施設 仙台つばさ荘

P9. 母子生活支援施設 仙台むつみ荘

～教育事業～

P9～10. 仙台理容美容専門学校

《 令和6年 仙台市社会事業協会 新年のご挨拶 》

副会長(業務執行理事) 小野寺 信也

新年明けましておめでとうございます。

コロナウイルス感染症が5類に変更し、街中では、マスクを外して会話している姿を目にします。それと同時にインフルエンザも流行しており、職員の皆さんには、大変なご苦勞、ご尽力頂き、感謝申し上げます。

今年は、10年先を見据え「中長期(10年)計画」「経営」「人材育成」を柱として計画的に運営していきます。

① 中長期計画(10年計画)について

大規模修繕工事を継続して行い、柏木保育園、仙台つばさ荘の建て替えを行う予定であります。また、仙台むつみ荘の建て替えを視野に入れ、大規模修繕工事を含み、新規事業等の提案を盛り込んだ、中長期計画(10年計画)を作成します。

② 経営について

経営対策会議で、施設ごとに金額の目標を設定し、令和6年度の事業計画、当初予算に組み込む予定であります。

③ 人材育成について

管理職者(施設長)及び候補者、中間層の職員(主任、副主任)を対象にした研修、新人職員の振り返り研修等を行っていきます。

今年は攻めに転じ、今後の見通しを立て皆さんと内容を共有し、安定経営できるように役職員一丸となって取り組んで参ります。ご協力願います。

事務局長 小野寺 信也

新年あけましておめでとうございます。

昨年、建築士による、法人の施設、建物の修繕報告書を基に、施設長はじめ、職員の皆さんの協力により、大規模修繕工事を行う事が出来ました。今年は、昨年行った施設長からのヒアリングの内容を基に大規模修繕工事を行います。また、法人事務局と施設長が協力し、老朽化した柏木保育園、仙台つばさ荘の建て替え工事を行う予定であります。

経営面では、顧問の辻本郷税理士法人から「人件費率が大幅に増加し経営を圧迫している」との指摘を受けています。法人の将来、職員の成長を視野に入れ、高齢者施設、児童施設等の枠を外し、大規模な人事異動を行います。

今まで以上の協力をお願いいたします。

養護老人ホーム仙台長生園 特定施設仙台長生園

園長 小船 順子

新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願い申し上げます。

4月に園長就任してから8か月、怒涛のように時間が過ぎていきました。世間では、通常を取り戻している感染症の影響も、病気の質が変わったわけではないので、高齢者施設では変わらず高いリスクに意識を集中させ、感染予防対応の日々。6月、7月、11月に感染者は発生したものの、昨年度と比べると少人数で最短の期日で収束しています。これは良くも悪くも、何回かのクラスター経験を経たことから、職員が感染者発生時の対応のコツをつかみ適切な対応ができたことによると感じております。

養護老人ホームを取り巻く環境は、全国的な措置者数減少をはじめとして課題満載です。仙台長生園も、

長期の措置者数は昨年度末から10名ほど減少していますが、生活管理指導短期宿泊事業は昨年度の2倍の利用率となり、昨年度7月から始めた契約入所にしても、現在20名の方に利用していただいております。職員一人一人が経営に対する意識を高めてくれたおかげかと感謝しております。

とはいえ、長期入所者を受け入れ、経済的、環境的に居宅において生活を継続できない方を自立に向け支援してゆくということが養護老人ホームの使命であり本分なので、地域に潜在している要支援者につながるよう、今後も行政とは綿密に連携をとってゆければと思います。

仙台長生園は、住居に困窮する利用者受け入れの間口を拓き、社会資源として地域の皆様に末永く貢献してゆけるよう努めます。

今年もご指導、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

《 令和6年 仙台長生園ユニットケア施設群 新年の抱負 》

総括施設長 植木 祐子

新年あけましておめでとうございます。

昨年は年初めの1月にはグループホーム楽庵、及び創快館での新型コロナウイルス感染症対応に始まり、年の瀬も押し迫った12月にはユニット館ショートステイ等での新型コロナウイルス感染症、及び本館多床室でのインフルエンザ感染症が同時期に複数発生する等感染症対応に追われた1年でした。今後も基本的な感染予防対策と発生時の拡大防止対策を徹底し、新型コロナウイルス、インフルエンザ共に再発防止に努めてまいります。

一方で、ユニットケア施設群では、事業所ごとに地域に向けた公益的活動について感染防止対策を講じつつ、実施して参りました。葉山地域包括支援センターでのフレイル予防事業の講座に楽生園管理栄養士や機能訓練指導員を派遣したり、グループホーム楽庵では資源回収、公園清掃等の町内会活動に参加致しました。楽庵及び楽園デイサービスセンターでは、地域の小中学校に認知症介護指導者や実践リーダー等が出向いて認知症講座を開催し、認知症教育の啓発に努めました。介護・福祉の後継者育成という点では、各事業所共に介護福祉士、社会福祉士、介護支援専門員等、各種実習生の受入れに積極的に取り組んだ他、地域の中学校職場体験の受入れにも継続して取り組みました。今後も施設群内の事業所が連携して、地域に向けた公益的活動の充実を図って参ります。

2024年度に実施される介護報酬改定に向けては、全体の改定率プラス1.59%とされておりますが、求められる医療連携・ICT化・認知症や看取りケアへの対応等具体的内容を把握して加算取得に向けた準備を整え、各事業所が自立した経営を目指し取り組みたいと思います。

《 各事業所 新年の抱負 》

特別養護老人ホーム仙台長生園

園長 植木 祐子

この数年厳しい経営を余儀なくされてきたことを鑑み、稼働率の向上を目指してショートステイと長期入所の連携はもちろん、施設群内外の各事業所、関係機関と連携し、新規利用者の確保、退園後のスムーズな受入に努めました。また人員体制についてもスリム化を図り、職種間の情報共有と連携を図りながら、各職種共に少数精鋭での事業運営に務めました。こうした成果もあり楽生園長期入所について、上半期本館・ユニット館共に黒字収益をあげることができました。一方ショートステイでは、ロング利用者の長期入所への移行、ならびに12月に新型コロナウイルス感染症陽性者が複数発生して新規受け入れを中断した影響等から、近年になく厳しい経営を強いられています。今後は感染症予防に努めつつ、ユニット館及び本館ショートステイをしっかり連携させた上で、稼働率向上を目指し取り組んで参ります。

また、大規模修繕工事の一環として、楽生園ユニット館の一部ベランダ客土撤去、楽生園本館の雨漏り

箇所の防水工事等実施した他、法人の事業として本館中庭の樹木伐採・整備も行われ、利用者の皆様が安全・快適にお過ごしいただけるように致しました。次年度以降も更に大規模な修繕工事を予定していることや、福祉医療機構への返済金等については、法人並びに仙台理容美容専門学校からの協力を得て対応することとなりました。

今後は2024年度の報酬改定に伴う新たな加算取得や基本報酬となるサービスへの対応を適宜実施し、職員一丸となって経営改善に取り組むと共に、新卒採用等での職員の確保と、新任者、中堅者等、事業運営の中核となる職員の人材育成にも取り組んで参ります。

住宅型有料老人ホーム 創快館

施設長 植木 祐子

昨年は年明けの1月から新型コロナウイルス感染症陽性者が利用者、職員共に複数発生し、併設事業所からの応援を得て対応致しました。最小限の人員で運営する事業所としての課題が浮き彫りになったことから、職員が兼務となっている葉山訪問介護センターとの情報共有や応援協力等について、非常時のみならず日常の支援場面から可能となるように致しました。

また、夜間や緊急時等の対応について、併設の仙台楽生園介護士及び看護師等の協力・連携体制が一昨年12月から構築されたことで、より安心と安全が確保された中で事業運営ができるようになりました。

一昨年からお2人での入居が可能となったことでご夫婦世帯の受入れもあり、有料老人ホームに転換して以降最高の収支となった他、年末まで3名の退居がございましたが新規利用者様をお迎えし、全室満床で新年を迎えることができたことが何よりの喜びです。

これからもユニットケア施設群の機能を活かし、利用者の皆様がより安全に、安心してお過ごしいただけるよう、またアフターコロナの中でより生き生きとお過ごしいただけますよう、努めてまいります。本年もどうぞよろしく願い致します。

葉山地域交流プラザ

館長 石井 紀之

令和5年における地域交流プラザの状況として、新型コロナウイルス感染症の影響等により、喫茶レストラン「茶楽」の運営を委託していたパーソナルサポートセンターの撤退、展望露天「天空館」の事業廃止となりました。仙台楽生園ユニットケア施設群開設以来、多くのお客様・利用者様にご愛顧頂き、心よりお礼申し上げます。

実績としましては、包括主催によるオレンジカフェや団体ボランティア「はばたき会」の活動再開等、NEXT コロナ・ポストコロナを見据えて利用者様と直接関わらない事を前提として段階的に活動を再開しております。

令和6年においては、仙台楽生園ユニットケア施設群の各事業所と今まで以上に連携して地域の皆様が安心して生活できる福祉ニーズに答えるべく、創意工夫して取り組んで参ります。

グループホーム楽庵

施設長 佐々木 薫

新年、明けましておめでとうございます。

一昨年は“激変”の一年と述べましたが、昨年こそが、激変いや激動の1年でした。それは、一昨年からの年末年始にかけて、ご利用者4名、職員4名がコロナ陽性となり、クラスターが発生したからです。休日体制の上に、グループホームですので徘徊する方やマスクのできない方もおり、認知症ケアや感染症対応に大変な日々を過ごしました。ユニットケア施設群内の協力と職員の献身的な働きもあり、約2週間という短期間で終息させることができましたことに、改めて感謝を申し上げたいと思います。その後、スタッフの退職や新規

採用などが続き、人材確保に苦慮した一年でもあります。人材育成の難しさや大切さも痛感したところです。

より良いサービスが提供できるように、アフターコロナでまだ制限がある中でも面会や行事などの工夫を行いました。人権に配慮して感染対策を実施した上での面会の実施、外出やドライブでの買い物や喫茶店巡り、施設内で出前を取り寄せ好きなものを召し上がるなど、ご利用者やご家族の希望に応じた対応を心掛けました。地域連携では、小学校への認知症講座が大変好評でしたので、早い段階で認知症について考えられるよう、今後も継続できればと考えています。

昨年6月に、「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」が成立し、本年1月1日に施行されました。認知症の人が尊厳を保持しつつ希望を持って暮らすことができるよう、認知症施策を総合的かつ計画的に推進するというものです。私達のグループホームも、この基本理念に基づき、認知症ケアに取り組んでまいりますので、本年もよろしくお願いいたします。

葉山地域包括支援センター

所長 佐々木 薫

新年、明けましておめでとうございます。

昨年は新型コロナウイルス感染症が2類から5類に変更され、社会生活も徐々にではありますが通常に戻りつつあり、当センターでも、それに合わせて通常業務ができるようになってまいりました。残念ながら、職員や家族の感染により、一時的に業務を制限せざるを得ない場面もありましたが、ある程度の相談や支援活動ができたのではないかと思います。

仙台市では、令和6年度より3年計画の新たな「高齢者保健福祉計画」「介護保険事業計画」案が発表されています。仙台市の基本目標として、「高齢者が健康で生きがいを感じながら心豊かに自分らしく活躍する事が出来ると共に、地域で共に支え合い、将来にわたり誰もが安心して暮らし続ける事が出来る社会の実現を目指す」事を掲げています。この目標に基づきながら、当センターでは相談や支援活動を展開してまいります。

また、当センター圏域での高齢化率は24.2%で仙台市平均と概ね同様の傾向となっていますが、8050問題や精神疾患を抱えたご家族への対応など、多種多様な相談が増加傾向にあります。今後も銀行や郵便局での出張相談会の開催や、引き続きフレイル予防に力を入れながら、他者交流の機会を持てるように新たな集いの場の創出を図っていきたくと考えております。スタッフ一同、「ここで暮らしていきたい」と思えるような地域づくりを目指してまいりますので、本年もよろしくお願いいたします。

楽園デイサービスセンター

所長 小船 正明

楽園デイサービスセンターでは、新型コロナウイルスが5類へ移行した後も感染対策に努めながら安心してご利用いただけるよう職員一丸となって取り組んで参りました。

サービス面では、ご利用者様の認知症を予防、緩和できるような活動内容として、季節ごとの料理会や夏祭り・長寿を祝う会などの室内行事や、少人数でのドライブ外出も多く実施し、季節感を肌で感じていただくことが出来ました。ご利用者様の安全対策としては、無断外出対応訓練や防火訓練も実施致しております。またコロナ感染状況の影響を受け中止としていた家族交流会や運営推進会議も再開し、参加者間の情報交換や現状の相談内容などが話され、とても有意義な時間を共有することが出来ました。

経営状況としては、稼働も4月は60%後半、5月、6月は70%以上と安定しておりましたが、ご利用者様のコロナ感染や重度化に伴う施設入所などの影響もあり、稼働率が50%台まで下がりましたが、現状では少しずつ回復しております。稼働安定のためにもご利用者様の介護重度化などに合わせ、ご家族やケアマネと相談のうえ、利用回数の増加を提案しつつ、ご家族の負担軽減も目指して参ります。今後も新規利用者獲得の営業活動や、サービス内容の見直しなどに力を注ぎながら、業務の効率化と収益増を目指して参ります。

新年も感染症予防を継続しながらもご利用者様の笑顔やご家族様のご負担の軽減を念頭に、理念に掲げ

ている「いこいの一時、なごみの空間、楽しみの園」を提供できるよう、より一層尽力して参ります。

葉山ケアプランセンター

所長 小船 正明

ケアプランセンターも新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、ご利用者様が安心して在宅生活を継続できるよう個別のニーズに合わせての支援に努めて参りました。稼働率に関しては、施設入所や入院等の理由で終了する方も多く変動がありながらも、介護・介護予防のご利用者様も増加している現状にあり、収支としては黒字を維持しております。

事業面では、運営指導やケアプラン適正化事業を受けたことにより、昨年度より更に必要な専門知識を習得し適正なマネジメントに取り組んで参りました。またタブレットを活用しての勉強会など外部機関との連携強化にも成長が見られました。

今後も利用者数を増やすことを目標に、施設群内の各事業所との連携を図って参ります。在宅で生活を続けるご利用者様とご家族様が安心してサービスを受けられるよう今後も感染症対策の継続にご協力をお願いしながら、ご利用者様・ご家族様、各関係機関との信頼の構築に努め、安心を届けられる事業所を目指して参ります。

葉山ヘルパーセンター（介護部門・障がい部門）

所長 小船 正明

ヘルパーセンターも新型コロナウイルスが5類に移行した中でも感染予防に努めながら在宅介護の継続ができるようサービスに努めて参りました。コロナ5類に移行したことで利用者様の生活環境に以前のような活気が戻りつつも、市中のコロナ感染増加がみられたことにより、ご利用者様（同居ご家族様）・当事業所職員もコロナ感染の影響を受け、サービスの中止や回数調整が多い状況にありました。一般の生活環境がコロナ以前に戻ろうとしている中にあり、コロナウイルスやインフルエンザ感染症など、常に心配を抱えながらも感染予防に細心の注意を払い訪問介護サービスを継続した1年でした。

この1年間を振り返ると介護部門では要介護者の件数は、ほぼ横ばいに対して、介護予防のご利用者様は増加しております。障害部門では件数は横ばいの状況であり、サービス依頼はあるものの人員体制面でサービスを受けられない状況でした。以前より登録ヘルパーの採用に苦慮している現状が続いております。事業所全体の成長としては、中止をしていた勉強会を再開し職員間でのコミュニケーションを図りながら知識の習得に繋がっていることです。今後は更に加算取得に向けて取り組んでいきたいと考えます。

新年も感染予防対策の継続をしながら、ご利用者様の住み慣れた地域の中で安心して生活を継続できるようにサービスの実践をして参ります。

沖野老人福祉センター

館長 天野 博美

あけましておめでとうございます。

沖野老人福祉センターは、大規模改修工事が終了し、新しい職員を3名迎えて、昨年12月1日にリニューアルオープンしております。館内は、床や壁が新しくなり、とても快適な空間に生まれ変わりました。新たな装いの老人福祉センターに、ご利用される皆様も大変喜ばれていらっしゃいます。まだ、再開して間もない為、不備も多くありますが、少しずつ改善し、皆様の満足につながるようなセンターにしてゆきたいと考えています。

また、沖野老人福祉センターは、令和5年度に現指定管理の最終年を迎え、次期指定管理公募に応募し、現在指定を待つ状況です。これまで以上に、介護予防に力を入れ、これまでやってこなかった新しいことにも挑戦したいと考えています。

センターが再開し、利用者の皆さんが来館され、センターは以前と同じような活気を取り戻しています。健康

長寿の秘訣に「きょういく、きょうよう」という言葉を耳にします。用事があって、行く所があることが、健康長寿につながるという事らしいのですが、皆さんの「行く所」「用事」を達成する場所に、沖野老人福祉センターを選んでいただけるよう、取り組んでゆきます。「沖野のセンターに行けば、何か楽しいことがある」、「今日もセンターに行ってみよう」と言ってもらえ、閉じこもり予防、認知症予防、フレイル予防の一環を担う施設を目指してゆきますので、本年もよろしく願いいたします。

沖野居宅介護支援センター

所長 天野 博美

沖野居宅介護支援センターも、併設する沖野老人福祉センターの大規模改修工事の為、昨年は仮事務所に移って事業を継続して参りました。昨年12月に老人福祉センターに戻ってきております。

新型コロナウイルスも、5類に移行し、以前のような大きな不安も軽減されてはいますが、インフルエンザや他の感染症の流行もあり、高齢者にはまだまだ安心できる状況にはならないのが現状です。

そのような中ではありますが、様々な外部研修などに参加するなどして、ケアマネージャーとして必要な情報収集に努め、常に新しい情報を集めて、担当するご利用者のサポートに当たって参りました。

これからも、常に新しい情報を得て、事業所内で共有し、事業所として更なる成長を目指して、研鑽を重ねてゆきたいと思っております。

また、老人福祉センターを利用される高齢者の皆さんが、介護が必要になった場合などに、来館したついでに気軽に相談できる居宅介護支援センターを目指してゆきます。その為に、老人福祉センターの職員と情報を共有し、必要に応じて地域包括支援センターとの橋渡しの役割が果たせるようにしてゆきたいと思っております。本年もよろしく願い致します。

幼保連携型認定こども園仙台保育園

園長 土屋 志津子

あけましておめでとうございます。

新型コロナウイルス感染症は、昨年5月より感染症法上の位置付けが5類感染症になり、基本的感染対策は、個人や事業所の判断が基本となりました。これを受けて、日々の保育や行事について職員で話し合いをし、感染拡大防止をしながらどのように行えば良いかを工夫して取り組んできました。幸いに新型コロナウイルス感染症、インフルエンザ共、感染拡大することなく新しい年を迎えることができ安堵いたしました。今年も引き続き油断することなく気を付けていきたいと思っています。

仙台保育園の職員全体の目標は、◎未来を担う子どもの最善の利益を考慮し、成長の喜びを保護者と共有する ◎家庭的な温かい雰囲気の中で一人ひとりを大切に、情緒の安定を図り、主体的に活動できるようにする としております。今年もこれは変わることはなく、職員一人ひとりがお互いを意識し合い、カバーし合い、つながりを大事にすることが必要で、子ども達にそういう大人の良い姿を見せつつ、子ども優先、保護者に寄り添うという姿勢を忘れずにいたいと思っています。昨今、幼い子どもが巻き込まれる事故や事件、不適切な保育に関する報道が多くありますが、仙台保育園は今後も、子ども達が楽しく過ごし明日も来たいと思える場所、保護者の皆様が大切なお子さんを安心して預けることができる場所であるよう、職員一同、心をひとつにしてまいります。子ども達、保護者の方々、そして職員も笑顔あふれる1年となるように願っております。

今年もどうぞよろしく願いいたします。

柏木保育園

園長 高野 誠

新年あけましておめでとうございます。

昨年度の4月1日に、こどもがまんなかの社会を実現するためにこども家庭庁が発足し、政府の「異次元の

少子化対策」のたたき台として、保育士の「75年ぶりの配置基準改善」が明記されたもののなかなか先に進まずにいます。だからと言って、今までがそうであったように私たち保育者は、不適切保育等の原因を配置基準からくる余裕のなさで片づける訳にはいきません。

そして、保育の質を上げるためには、チームでの保育が必要不可欠です。誰かの間違いを指摘して正したり、正しい事を教えることが若手を育て保育の質を高めていくとは考えられません。職員が互いに多様な視点、多様な考え、多様な方法を認め合い、保育を語り合う事が大切だと考えます。

令和6年は、いよいよ柏木保育園の建て替えについてより具体化していく年となります。すべての職員で、子どもたちが過ごす保育園作りに参加し、自らが園運営に参画していくという姿勢、こういう保育をするためにはこの環境を子どもたちに用意してあげたいという気持ちで臨むことが必要不可欠と考えます。そして、その一体感が更なる保育の質の向上につながっていくと信じています。

少子化が進む世の中だからこそ、保育の質が問われるといっても過言は無いでしょう。そして、私たちが言う保育の質とは・・・を、胸を張って言えるよう、職員一同一丸となる、そんな一年にしたいと考えています。

今年もどうぞよろしくお願いいたします。

富沢わかば保育園

園長 木村 裕子

新年明けましておめでとうございます。当園では2023年4月からご家族への連絡方法をICT化にすることが出来ました。混乱することもなく、保護者にこまめにお知らせができるようになり良かったと実感しています。例えば、感染症が流行する前に園の状況を直ちに配信できることで、利便性に優れていることと感じています。新型コロナウイルス感染に関しては、2類から5類に移行したことで、行事の参加についても保護者の参加人数を増やすことができました。特に発表会では参加人数を1家庭1名から2名までにしたことで、多くの保護者に見てもらい子ども達の成長した姿にお褒めの言葉をいただきました。保育園にとっても嬉しいことです。

富沢わかば保育園は築32年になり大規模修繕工事が8月から約2ヶ月間、内部壁紙張り替え、2階テラス、園庭のフェンスを修繕し、見違えるほど新しくなり、保護者からも好評で職員もより新鮮な気持ちで保育ができることに感謝しています。子ども達にとって居心地が良く、安心・安全な環境で楽しく保育をしていかなければと、常に認識しながら職員一同過ごしています。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

中山保育園

園長 佐藤 由美

あけましておめでとうございます。

歴史のある中山保育所から委託期間を経て、平成30年から法人運営の中山保育園となり、そして令和5年度より幼保連携型認定こども園中山保育園として新たなスタートを切りました。ICTシステムの導入もあり新しい取り組みに保護者も職員も慣れてきているところです。新しいものを取り入れながらも中山保育所時代から大切にしている保育を受け継ぎ、委託後も積み重ねてきた保育や保護者支援の充実を大切に、安心して預けていただけるよう努めてきました。これまでのコロナ禍の取り組みは計画していた行事が予定通り進めることができないものもあり、職員の工夫で形を変えたやり方で進歩あるものを探りながら考えてきました。令和5年度は元年度以来の12月の発表会ができ、その前まで今回はインフルエンザの流行で延期が危ぶまれる日々もありましたが、久しぶりの発表会に全員参加の実施で、子どもたちの力が発揮できたこと、改めて子ども達のパワーを感じた瞬間でもありました。

新しい年を迎え職員一同心新たに、子ども達一人一人に寄り添いながら、それぞれの年齢の今を大切にしたい教育、保育を心がけていきます。子ども達も保護者も職員も、みんなが笑顔になれる年でありますように…。

今年もよろしくお願いいたします。

仙台つばさ荘

主任母子支援員 渡邊 真由美

新年あけましておめでとうございます。

今年は、母子生活支援施設に関わる法律が4月1日に改正児童福祉法、また困難を抱える女性への支援に関する法律(新法)、それぞれ、施行される年でもあります。それらの法律の重要としているものを学びつつ、求められるものを実施できるよう努力して参ります。

仙台つばさ荘は築年数が45年を超え、老朽化が進んでいることから施設の建て替えについて検討中であり、仙台市へ補助金の申請をしている段階です。許可を頂くことができれば、今年から建て替え工事の動きがスタートしていきます。その際は、利用者支援と並行して建て替え工事に向けて職員一同進んで参ります。

令和5年は新型コロナウイルスの対応が5類に移行し、仙台つばさ荘は感染対策も考慮しながら行事を行いました。ただ、前と同じ行事の形に戻すだけではなく、新しい形の行事の在り方を考えるようにして行きました。先日行ったクリスマス会は、施設内にサンタクロースの部屋を作り、プレゼントを渡すというサプライズな形で行いました。また、4年ぶりに「母の会」を開催することができました。入所のときに「母の会」の説明はしますが、ほとんどの方が「母の会」を知らない方たちだったので、皆さんに快く参加して頂けました。

今年も子どもの健やかな育ちと母親の養育を支援するために、各々、専門性の向上を高め支援の質の向上に努めて参ります。また、施設の建て替えに向けて安定した経営に取り組んでいきたいと思っております。

更に利用者の方、各関係機関からの信頼関係の構築を強化し、ひとり親家庭の生活支援、養育支援、自立支援を担い、求められる施設になるよう職員一同力を合わせて参ります。

どうぞ、今年もよろしくお願いいたします。

仙台むつみ荘

施設長 石道 久子

新年あけましておめでとうございます。

昨年は様々な支援の中でも“健康”について、考えさせられる機会の多い一年でした。体や心の健康を保ちながら、あたり前の生活を送ることへの支援の難しさを痛感し、日々職員皆で悩みながら、話し合いながらの支援でした。その中で、これまで関わりの無かった機関と繋がり、共に支援する中での学びも多く、何より支えてもらっている、応援してもらっている、私たちだけで支援しているのではないと、改めて気づくことができました。この経験から、内にこもらず一歩踏み出すことで、様々な経験ができ自分たちの力になる事を実感しました。今年、地域との関わりを通して様々な方々と知り合い、そのことがより充実した支援に繋がるような取り組みを始めたいと思っています。また、建物の老朽化が進み修繕工事の多い年でもありました。今年も、不具合が出た時は迅速に対応し、入所者の皆様へ安心安全な生活を提供できるようにします。近年、入所期間が短くなっていますが、明るい雰囲気大切にしながら、日々の挨拶、雑談、相談、遊びを通して信頼関係を築き、母子が受援力を身に着けて、周囲に頼れるようになって自立していくことを目指します。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

仙台理容美容専門学校

校長 小野寺 光弘

新年あけましておめでとうございます。年頭にあたり新年のご挨拶を申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症も五類感染症に移行し、世の中の動きも徐々に平常時に戻り、学校行事もほぼ通常時に近い形で実施することができました。行事に取り組む学生の姿を見て改めて学校行事の重要性を感じた年でもありました。また、「全国理容美容学生技術大会」の出場をかけて、7月に岩手県盛岡市で開催された東北地区大会では、本校学生9名が東北地区代表(17名中)として全国大会の出場権を獲得いたしました。そして、10月に大阪で開催された全国大会では、理容科の学生1名が優秀賞を受賞することができました。年々全国の技術レベルが高くなっている中で上位入賞できたことは大変うれしいことでした。

さて、新年を迎え今後の学校運営を考える上で、最大の課題は入学者の減少です。
18歳人口も横ばいとはいうものの少しずつ減少しており、進路選択についても、大学・短大・専門学校への進学や様々な業種への就職など選択肢も幅広く、理・美容への志願者数が増えることは期待できなくなっています。本校としても何とか入学者の減少を食い止めるために、入学選考基準や本校独自の奨学金制度の見直し、広報活動の強化など様々な角度から検討し、令和7年度の入学者募集に向けて新たな取り組みをしたいと考えています。また、教育面については、業界の動向や学生がどういったことに興味を持ち、学びたいと思っているのかなども考慮しながら、「魅力ある授業」をめざして学生の育成に努めていきたいと考えています。
本年もどうぞよろしくお願い致します。



社会福祉法人 仙台市社会事業協会